

| 科目番号 | 科目名 | 学年 | 科目目的 | 到達目標 | ディプロマ・ポリシーの項目番号 | | | | | | | | | | | | |
|------------|------------|----|---|--|---|-----|-----|----------|-----|-----|----------|-----|-----|-----------|-----|-----|-----|
| | | | | | 凡例：◎ディプロマ・ポリシー達成のために特に重要な科目 ○ディプロマ・ポリシー達成のために重要な科目 | | | | | | | | | | | | |
| | | | | | 1. 知識・理解 | | | 2. 技能・表現 | | | 3. 思考・判断 | | | 4. 態度・志向性 | | | |
| | | | | | 1-1 | 1-2 | 1-3 | 2-1 | 2-2 | 2-3 | 2-4 | 3-1 | 3-2 | 3-3 | 4-1 | 4-2 | 4-3 |
| 20UMUA3247 | 臨床心理学Ⅱ | 3 | 心理臨床の場において、心に問題を抱えるクライアントへの理解を深めるとともに、言葉や音楽、動き、遊びなど様々なかたちで行われる対話のありようについて学び、実践に役立てる。 | ・臨床心理学Ⅰで学んだ内容を基盤としながらも、音楽療法の実践の基盤となる心理療法的理論と技法を学ぶ。 ・セラピストとクライアントとの信頼関係を築くための基盤について学ぶ。 | ◎ | | | | | ◎ | | ○ | ○ | | | | |
| 20UMUA3248 | 社会福祉論 | 3 | 社会福祉論（内容・制度等）について俯瞰する。その上で特に音楽療法士（対人援助職）に求められると思われる社会福祉の基礎知識を学ぶ。 | 日常生活、社会福祉およびそれに纏わる制度に対し、関心と理解を高める。他の対人援助職と関わる上で、共通認識となる社会福祉の基礎的概念や制度等について、一定の理解を持てるようになる。音楽療法士の実習や実践に有用な知識を持つ。 | ◎ | | | ◎ | | | | | | ○ | | | |
| 20UMUA3249 | 障害児教育 | 3 | 音楽療法などの療育指導を有効に行うために、子どもの障害、特に発達障害についての基礎知識を習得する。 | 療育指導などの現場で出会う障害児・者を支援するためには、その人たちを個別に理解することとともに、障害についての基礎知識が必要である。この授業ではそのような基礎知識を確実に身につけることが目標である。 | ◎ | | | | | | | | | ○ | | | |
| 20UMUA2250 | 介護論 | 2 | 日本では現在少子高齢化が進み、介護の必要性はますます高まっている。介護予防の考え方、介護方法、障害を持っている人の機能回復を考慮した介護について理解を深める。 | 対象者は高齢者、脳血管障害患者とし、寝返り、起き上がり、立ち上がり、杖歩行などの基本動作における介護方法を理解する。日常生活動作に関わる食事動作、整容動作、入浴動作、トイレ動作、更衣動作における介護の実際について理解する。 | ◎ | | | | | | | | | | | | |
| 20UMUA3251 | レポーターラーニング | 3 | 障害者児や高齢者を対象にした音楽療法を実践する上で大切なのは、これまでに歩んできた個々の歴史や背景を知ることである。そのためには、世代に共通した文化を個々の人生の背景として理解することが必要となる。このことを通じて、音楽療法の実践に役立つ技術を学ぶ。 | ・障害者児から高齢者に至るまで、各世代に共通した文化的背景について理解する。 ・上記を踏まえた音楽療法の実践技術を習得する。 | | | | | | ◎ | | ○ | ◎ | | | | |
| 20UMUA2252 | ダンスと動き | 2 | 本講義では、音楽療法の周辺領域であるダンス・ムーブメントセラピーおよび表現アートセラピーを学ぶと同時に、ダンス・ムーブメントと音楽、あるいはその他の表現形式を組み合わせたワークの学習によって、より幅広い技法を習得する。 | 1. 安心して学習できる「パーソンセンタード」の環境づくりを学ぶ。 2. からだを通じた自己探求を試みる。 3. ダンス・ムーブメントが持つヒーリングの側面を体験する。 4. グループワークの方法を学ぶ。 | ◎ | | | | | | | | | | ◎ | | |
| 20UMUA3253 | 医学概論 | 3 | 人体の構造と機能を関連づけて正しく理解し、正常な状態が病気によって障害された際に起こる変化について学習する。また先端医療の抱える諸問題についても考察する。 | 人体を構成する臓器系とその生理的働きを理解し、それらの病態（生活習慣病、感染症、難病、精神疾患、先天性疾患、知的障害など）について学習し、さらに人口静・動態や疾病の現状など公衆衛生に関する状況、また保健福祉対策の概要についても理解を深める。 | ◎ | | | | | | | | | | | | |
| 20UMUA3254 | 音楽療法各論Ⅰ | 3 | 音楽療法の対象分野の中での幼児・児童に関する問題点を学ぶ。 特に幼児期の発達と障害について、音楽と言語の関係とこれまでの研究の紹介などから、臨床面との関連を学ぶ。 | ・幼児期よりの機能的発達の特徴や障害について理解する。 ・自閉症、AD/HDなどの理解と音楽療法との関連について理解する。 ・発達障害に対する臨床的アプローチを習得する。 | ◎ | | | ◎ | | | | | | ○ | | | |

| 科目番号 | 科目名 | 学年 | 科目目的 | 到達目標 | ディプロマ・ポリシーの項目番号 | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
|------------|---------|----|---|--|---|----------|----------|-----------|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|---|
| | | | | | 凡例：◎ディプロマ・ポリシー達成のために特に重要な科目 ○ディプロマ・ポリシー達成のために重要な科目 | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | | | | | 1. 知識・理解 | 2. 技能・表現 | 3. 思考・判断 | 4. 態度・志向性 | 1-1 | 1-2 | 1-3 | 2-1 | 2-2 | 2-3 | 2-4 | 3-1 | 3-2 | 3-3 | 4-1 | 4-2 | 4-3 | 4-4 | |
| 20UMUA4255 | 音楽療法各論Ⅱ | 4 | 幅広い臨床領域の中から、特に精神上（心理面や行動面など）生活を送るうえで影響を受けている状況にあるクライアントを対象とした音楽療法の学習を進める。クライアントを包括的に理解しながら、それに対する音楽療法のアプローチを紹介するなかで実践的知識と技術を主体的に学ぶ。 | 科目履修後は、授業内容に記載の項目について一定の知識を持ち、理解ができていることを目標とする。 | ◎ | | | ◎ | | | | | | | | | | | | | | | |
| 20UMUA4256 | 音楽療法各論Ⅲ | 4 | 高齢社会を迎えたわが国において、高齢者の心身における様々な症状を理解し、生活や生き方を支えていく援助のあり方とは何かについて考えることは重要である。また、介護が必要な高齢者への援助や、介護予防につながるアプローチのひとつとして適用されている音楽療法について理解する。 | ・高齢者における音楽療法のニーズや状況について理解する。 ・高齢者への音楽療法によるアプローチを習得する。 | ◎ | | | ◎ | | | | | | | | | | | | | ◎ | | |
| 20UMUA3257 | 臨床医学各論Ⅰ | 3 | うつ病を15人に一人が経験するとされるなど、精神障害が身近で頻度の高い疾患であること、そして決して特別な病気でないことが最近では広く知られるようになってきている。正しい精神障害に対する知識を深めることを授業目的とする。 | 音楽療法士資格試験を合格できるだけの精神医学の一般的な知識を得る。 | ◎ | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 20UMUA3258 | 臨床医学各論Ⅱ | 3 | 日本音楽療法学会が出題している音楽療法士（補）認定試験問題を解くために必要な知識のうち、“臨床医学各論Ⅱ”の関連分野である“小児の身体的および認知面の発達と疾患”について、音楽療法士として理解しておくべき内容について講義を行う。 | ヒトの身体の解剖生理、小児の身体的、認知的発達の基本的仕組みを理解する。さらに発達からの逸脱、疾病、特に後に障害の原因となる病態について理解できるようにすることを目標とする。 | ◎ | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 20UMUA3259 | 音楽療法演習 | 3 | 音楽療法の知識や技法を習得し、実践への応用力を養う。 | ・高齢者への音楽療法の技法を習得する。 ・子どもへの音楽療法の技法を習得する。 ・音楽の諸要素を療法的に活用する方法を知る。 ・多様な症例を想定した素材・教材について研究する。 ・音楽療法実践場面に必要な観察・評価法を学ぶ。 | | | | | | | | | | ◎◎ | | | ○ | | | ○ | ○ | | |
| 20UMUA1260 | 音楽療法実習Ⅰ | 1 | 様々な音楽療法の対象者や方法、および臨床の実践について、体験学習を通して基礎的理解をする。 | ・高齢者の音楽療法の実践について知る。 ・子どもの音楽療法の実践について知る。 ・病院における音楽療法の実践について知る。 | | | | | | | | | | ◎ | | | ◎◎ | ○ | ◎ | ○ | ○ | ○ | |
| 20UMUA2261 | 音楽療法実習Ⅱ | 2 | 社会的体験を通して、対象者および対人援助についての理解を促進する。 | ・子どもの音楽療法について知る。 ・高齢者への音楽療法について知る。 ・対人援助に必要なマナーや態度を習得する。 ・音楽療法における観察と記録の方法を習得する。 | | | | | | | | | | ◎ | | | ◎ | ○ | ○ | ○ | ◎ | ◎ | ○ |
| 20UMUA3262 | 音楽療法実習Ⅲ | 3 | 社会的体験を通して、対象者および対人援助についての理解を促進する。 主に高齢者に対する音楽療法実践に必要なとされる基本的な技能、態度を習得する。 | ・認知症高齢者への音楽療法の実践方法を学ぶ。 ・アセスメントと目標の設定について学ぶ。 ・音楽療法における適切な音楽の選曲や演奏方法について学ぶ。 | | | | | | | | | | ◎ | | | ◎◎ | ○ | ○ | ◎ | ◎ | ○ | |

| 科目番号 | 科目名 | 学年 | 科目目的 | 到達目標 | ディプロマ・ポリシーの項目番号 | | | | | | | | | | | | | | | |
|------------|-----------------|----|--|--|---|-----|-----|-----|----------|-----|-----|-----|----------|-----|-----|-----|-----------|-----|-----|-----|
| | | | | | 凡例：◎ディプロマ・ポリシー達成のために特に重要な科目 ○ディプロマ・ポリシー達成のために重要な科目 | | | | | | | | | | | | | | | |
| | | | | | 1. 知識・理解 | | | | 2. 技能・表現 | | | | 3. 思考・判断 | | | | 4. 態度・志向性 | | | |
| | | | | | 1-1 | 1-2 | 1-3 | 1-4 | 2-1 | 2-2 | 2-3 | 2-4 | 3-1 | 3-2 | 3-3 | 3-4 | 4-1 | 4-2 | 4-3 | 4-4 |
| 20UMUA1279 | 地域活性化システム論 | 1 | 地域の活性化に必要な知識、構造、問題点等を明らかにし、系統的に理解することにより、地域再生に必要な方策を考える能力を身につけることを目的とする。特に、関西地域の活性化に向けて、医療・医学、福祉、医工学・情報学分野でどのような取り組みが必要であるか、またどのような連携システムの構築が必要であるかを学習する。 | ①医療、福祉、教育、ICT（情報通信技術）など多分野からの地域活性化の実例を通して、地域活性化の方法論を理解する。 ②自分の居住地域の問題に関心を持ち、地域を活性化させるために必要なものを具体的に考えることができる。 ③総合討論における講師・受講生とのディスカッションにおいて積極的に発言し、自らの考えを的確に述べることができる。 | ◎ | | | | | | | | | | | ◎ | | | | |
| 20UMUA3285 | プレプロフェッショナル教育 | 3 | 近年の医・歯・薬学、工学・情報学の目覚ましい発展により、各分野を融合した医工学研究領域が新たな学問として脚光を浴びている。しかし、医学を理解した工学・情報学系の人材、工学・情報学系を理解した医療従事者は乏しいのが現状である。本科目では専門色が強く、かつ実習を取り入れた講義を行い、医工学領域の即戦力として活躍するために必要な知識を得ることを目的とする。 | ①専門科目では、臨床医工学・情報学の融合分野における最新の知見を学習し、各講義テーマと自らの専門分野・関心領域の知識とを結びつけて考えることができる。 ②共通科目においては理系（科学）英語の読み方・書き方および統計解析の考え方を学び、演習を通して研究をする上で必要となる基礎的なスキルを身につける。 ③実習では医療や福祉の現場を体感し、最新の機器等について理解を深めるとともに、講師とのディスカッションから研究倫理・職業観を養う。 ④本科目全体を通して、臨床医工学・情報学の融合分野への興味関心を喚起しながら自らが進む方向（分野）を考え、将来のキャリア形成の一助とすることができる。 | ○ | | ○ | | | | | | | | | | | | | |
| 20UMUA1283 | 多職種協働グループワーク実践論 | 1 | 医療や福祉の現場において、高度な医療や全人的な福祉を实践するために、多様な専門職が協調しながら職務を遂行する「チーム医療」・「チーム福祉」の取り組みが求められている。将来、臨床医工学情報学の融合分野において、互いの専門性を理解しながら主体的に活躍するためには、コミュニケーション能力やリーダーシップ能力、課題発見・課題解決力などが必要である。本講義では、異分野の学生とのグループディスカッション・発表プレゼンテーションを通して、それらの能力を養い、協調的な学習から相互理解を深めるとともに、グループだからこそ生まれる新しい知見・アイデアを創造することを目的とする。 | ①学生間の相互理解と問題解決に向けた共通認識を持つために、自分の専門分野の知識を異分野の学生にもわかりやすく伝えることができる。 ②グループが1つのチームとして有機的に活動し、協調的な学習から異分野融合による新しいアイデアを創造することができる。 ③異分野の学生とのグループディスカッションおよびグループ発表会を通して、コミュニケーション能力や発信力・傾聴力などに代表される「社会人基礎力」を身につける。 | ◎ | | | | | | | | ○ | | | ◎ | ○ | | | |